

## 最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

### 令和7年度10月号

#### ○ 概要

(1) 令和7年度10月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,521億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+4.8%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,884円（伸び率+6.2%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が2,029億円（伸び率+1.4%）、薬剤料が5,478億円（伸び率+6.1%）、薬剤料のうち、後発医薬品が1,007億円（伸び率▲2.9%）であった。（→P.4,5）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,520円（伸び率+6.0%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.82種類（伸び率▲0.3%）、28.3日（伸び率+4.0%）、69円（伸び率+2.2%）であった。（→P.8,9）

(3) 内服薬の薬剤料4,201億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+182億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の805億円（伸び幅+24億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+58億円（総額611億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	4,201億円 (+182億円)	39 その他の代謝性 医薬品(805億円)	42 腫瘍用薬 (611億円)	21 循環器官用薬 (607億円)
0歳以上 5歳未満	18.1億円 (▲1.9億円)	44 アレルギー用薬 (4.5億円)	22 呼吸器官用薬 (3.6億円)	61 抗生物質製剤 (2.4億円)
5歳以上 15歳未満	109.8億円 (+4.6億円)	44 アレルギー用薬 (33.4億円)	11 中枢神経系用薬 (31.0億円)	39 その他の代謝性 医薬品(7.2億円)
15歳以上 65歳未満	1,584億円 (+83億円)	39 その他の代謝性 医薬品(304億円)	11 中枢神経系用薬 (299億円)	42 腫瘍用薬 (203億円)
65歳以上 75歳未満	827億円 (+3億円)	39 その他の代謝性 医薬品(188億円)	42 腫瘍用薬 (158億円)	21 循環器官用薬 (132億円)
75歳以上	1,662億円 (+94億円)	39 その他の代謝性 医薬品(302億円)	21 循環器官用薬 (292億円)	42 腫瘍用薬 (245億円)

(4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,884円（伸び率+6.2%）で、最も高かったのは高知県（11,941円（伸び率+6.5%））、最も低かったのは佐賀県（8,636円（伸び率+4.2%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは石川県（伸び率+9.5%）、最も低かったのは佐賀県（伸び率+4.2%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注1)</sup>	91.4 %	+1.3 %
薬剤料ベース（新指標） <sup>注2)</sup>	78.3 %	+2.4 %
後発品調剤率	80.9 %	▲1.9 %

注1) 〔後発医薬品の数量〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量]) で算出。

注2) 〔後発医薬品の薬剤料〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の薬剤料〕 + 〔後発医薬品の薬剤料]) で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲2.9 %	+3.6 % (75歳以上 80歳未満)	▲9.2 % (5歳以上 10歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース、新指標）	78.3 %	87.0 % (100歳以上)	67.7 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	91.4 %	93.9 % (100歳以上)	90.4 % (80歳以上 85歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	862 億円 (▲13 億円)	21 循環器官用薬 (262 億円)	11 中枢神経系用薬 (154 億円)	23 消化器官用薬 (96 億円)
0歳以上 5歳未満	7.7 億円 (▲0.4 億円)	44 アレルギー用薬 (3.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.7 億円)	62 化学療法剤 (0.6 億円)
5歳以上 15歳未満	19.5 億円 (▲3.1 億円)	44 アレルギー用薬 (10.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.7 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.2 億円)
15歳以上 65歳未満	299 億円 (▲8 億円)	21 循環器官用薬 (73 億円)	11 中枢神経系用薬 (72 億円)	44 アレルギー用薬 (30 億円)
65歳以上 75歳未満	169 億円 (▲5 億円)	21 循環器官用薬 (63 億円)	11 中枢神経系用薬 (22 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(19 億円)
75歳以上	367 億円 (+4 億円)	21 循環器官用薬 (126 億円)	11 中枢神経系用薬 (57 億円)	23 消化器官用薬 (49 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~59）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,323 円	1,693 円(北海道)	1,150 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲1.6%	+0.8 % (青森県)	▲3.6 % (山口県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	91.4 %	94.4 % (沖縄県)	89.1 % (東京都)
新指標による後発医薬品割合（薬剤料ベース）	78.3 %	83.2 % (鹿児島県)	74.3 % (徳島県)
後発医薬品調剤率	80.9 %	84.5 % (秋田県)	77.8 % (東京都)

## 〔利用上の留意点〕

### 分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和7年度10月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。